

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01256

研究課題名（和文）江戸時代の上方面における幕府の機構と法令・裁判に関する実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study on the Government Structure and the Laws and Judicial System of the Shogunate in Kamigata during the Edo Period

研究代表者

小倉 宗 (Ogura, Takashi)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：40602107

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、関東とならぶ拠点地域であった江戸時代の上方面を主なフィールドに、幕府の政治機構や法令・裁判のあり方を実証的に解明するものである。具体的には、(1) 8代将軍の徳川吉宗による政権運営と法制・経済政策、(2) 幕府の政治機構（役職や組織・制度、運営の過程など）と法令・裁判について、そのしくみや特徴と時期的な変化を具体的に明らかにした。また、幕府の政治機構や法令・裁判に関する史料（古文書）のうち未刊行で重要なものを活字化（翻刻）・紹介した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

江戸時代には司法が行政から未分離であり、かつ、法の実体や作用とそれを運用する組織や手続とが明確に区別されていなかった。本研究は、行政的な法令と司法的な裁判をトータルにとらえるとともに、内容のみならず、それを実現する機構の面にも注目することで、幕府の法のあり方とその特徴を総合的かつ立体的に明らかにする点に学術的な意義を有する。また、本研究に関わる未刊行の重要史料を翻刻・紹介し、学界の共有財産とした点にも学術的意義がある。さらに、本研究の成果を社会や国民に還元するため、一般書・入門書の分担執筆や自治体・大学での講演等を通じて、一般の方々にも興味深く、わかりやすい形で発信した点に社会的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：This study empirically elucidated the government structure and the laws and judicial system of the shogunate, focusing mainly on the Kamigata region of the Edo period, which was a base region along with Kanto. Specifically, the study clarified mechanisms, characteristics and changes over time concerning (1) the administration of government and the legal and economic policies of the 8th shogun, Tokugawa Yoshimune, and (2) the government structure, including positions, organizations, systems and their administrative processes, as well as the laws and judicial system of the shogunate. In addition, important unpublished historical documents related to the government structure and the laws and judicial system of the Shogunate were transcribed.

研究分野：日本史関連（近世史）、基礎法学関連（法制史）

キーワード：幕府 江戸 上方 機構 法令 裁判 奉行 代官

1. 研究開始当初の背景

江戸時代(日本近世)の上方(かみがた)は、山城・大和・近江・丹波の東部4カ国と摂津・河内・和泉・播磨の西部4カ国との8カ国を範囲とし、政治・経済・軍事上、関東とならば幕府の拠点地域であった。そこでは、京都・大坂や伏見・奈良・堺のような直轄都市と、京都の二条や大坂の直轄城、広大な直轄領(幕領)などが設定された。また、京都所司代と大坂城代は、常置の最高職である老中に次ぐ地位にあり、両者をはじめとする上方の幕府役人は、江戸以外に所在する役人(遠国役人)のなかでも、人数や格式、職務の内容などが最も充実していた。さらに、上方においては、直轄都市に所在する幕府の奉行が、国を単位に所領の区別を超えた広域的な支配を行っていた。とくに享保7年(1722)の「国分け」以降には、京都町奉行が東部の4カ国、大坂町奉行が西部の4カ国を支配するとともに、奈良奉行は大和国、堺奉行は和泉国をそれぞれ範囲として各種の行政や裁判を担当した。このうち京都・大坂町奉行の管轄は、江戸の三奉行(寺社・江戸町・勘定の各奉行)やその合議体である評定所の管轄とともに、幕府の基本法典である「公事方御定書」下巻の第1条に規定されている。このように、上方は幕府において重要な位置を占めており、その支配について検討することは、ひろく幕府の政治体制や近世国家の構造を理解することにつながる。さらに、法は支配を構成する代表的な要素であり、それに分析を加えることは、幕府支配の特質を把握するうえで有効な視角・方法となる。

ところで、江戸時代には司法が行政から未分離であり、法について考察する際には、法令などの行政的な側面と裁判のような司法的な側面とを支配一般のなかでとらえることが必要である。また当時は、法そのものの実体や作用と、法を運用する組織や手続とが明確に区別されず、むしろ両者が一体となって機能したことから、幕府の法をよりよく理解するためには、内容の面のみならず、それを實現する組織・制度・過程といった(政治)機構の面に注目することが不可欠となる。そして、8代将軍の徳川吉宗が政権を担った享保元~延享2年(1716~45)をはじめとする江戸時代の中期(17世紀後半~18世紀後半)は、幕府の政治機構や法制が改革・整備される一大転換期であった。

以上の背景にもとづき、本研究は、関東とならば拠点地域であった江戸時代(とりわけ中期)の上方を主なフィールドとして、幕府がどのような政治機構(組織・制度・過程)を作りあげ、そこでの法令と裁判がどのような内容や特徴をもっていたのか、を学術的に問うものである。

2. 研究の目的

本研究は次の3点を目的とする。

(1) 従来、幕府の法令や裁判に関する研究は、内容面の考察に重点がおかれて機構面には必ずしも十分な注意が払われず、平板な理解となりがちであった。それゆえ、内容と機構の両方を視野に入れることで、法令や裁判のあり方を立体的にとらえることが必要である。本研究では、法制が改革・整備される転換期であった江戸時代の中期を中心に、関東とならば拠点であった上方を主なフィールドとして、幕府の政治機構や法令・裁判のあり方とその歴史的な展開を実証的に明らかにする。

(2) 江戸時代には行政と司法が明確に区別されず、同じ役人や役所が法令と裁判を一連のものとして実施したが、従来は、両者の研究が別個になされる傾向が強かった。そこで、本研究では、組織・制度・過程といった政治機構の分析を媒介しつつ、支配を構成する代表的な要素である法の行政的な側面(法令)と司法的な側面(裁判)とをトータルにとらえ、幕府支配の特質や近世国家(幕藩体制)の構造を把握する。

(3) 幕府の政治機構や法令・裁判のあり方がよくわかる良質の史料でありながら、従来あまり知られていないものや、刊行・活用されていないものが多く存在する。それゆえ、各地に残された幕府に関する原史料(古文書)を調査・収集し、とくに重要なものを活字化(翻刻)・紹介することは、地道ではあるが、当該分野の研究を進展させるうえで有意義な作業となる。本研究では、全国の所蔵機関(大学、図書館・文書館、博物館・資料館等)を訪問して幕府の機構や法令・裁判に関する原史料を幅広く調査・収集・分析するとともに、そのうち未刊行で重要なものを翻刻・紹介し、学界の共有財産にする。

3. 研究の方法

本研究は次の4つの方法によって行う。

(1) 幕府の政治機構や法令・裁判というテーマは、日本史学(日本近世史)と法制史学(日本法制史)との2つの学問分野に深く関わる。本研究では、先行研究となる著書や論文等を集中的に読み込み、その成果と課題を整理・検証するとともに、原史料(古文書)と刊行史料を幅広く調査・収集し、それらを系統的に解説・分析することを基本的な作業としている点で、これら2

つの学問分野のオーソドックスな方法論にもとづくものである。

(2) 本研究の成果を学会や研究会で口頭報告するとともに、学術論文（論説、史料紹介等）として論文集・学術誌・紀要等に順次発表することで、日本史学と法制史学の2つの分野における研究の進展に貢献するよう努める。

(3) 原史料については、江戸幕府から明治政府に引き継がれた史料や、幕府の役職をつとめた大名に残される史料などを所蔵する機関（国立公文書館や国文学研究資料館、東京都公文書館、京都大学附属図書館・文学研究科図書館・法学部図書室、上田市立博物館、神宮文庫等）において調査・閲覧し、デジタルデータやマイクロフィルムの紙焼き写真の形で撮影・収集する。また、収集した史料のうち未刊行で重要なものについては、江戸時代の古文書を解読する専門的な知識・技能を有した研究者等の補助を得て、翻刻・校訂・紹介の作業を進める。

(4) 一般書・入門書の分担執筆や自治体・大学での講演などを通じて、一般の方々にも興味深くわかりやすい形で発信することにより、本研究の成果を社会や国民に積極的に還元する。

4. 研究成果

本研究課題を応募した時点では想定しえなかった新型コロナウイルス等の影響により、当初の予定からは進捗がやや遅れたものの、次のような成果を得た。

(1) 2019年7月に東京大学出版会より刊行された杉森哲也編『シリーズ三都 京都巻』において「幕府役人と享保期の改革」と題する論文を執筆した。ここでは、幕府の政治機構や法制における画期となった享保期（1716～36）の京都において、長官の京都所司代を中心に役人たちがどのように活動し、どのような機構を作り上げたのか、役人や機構をめぐる改革がどのような過程と内容を有したのかについて、江戸との関係に注目しつつ具体的に明らかにした。

(2) 2023年12月に吉川弘文館より刊行された村和明・吉村雅美編『日本近世史を見通す2 伝統と改革の時代 近世中期』において「将軍吉宗の改革政治」と題する論文を執筆した。ここでは、江戸側の史料を用い、享保前期を主な対象とする従来の研究に対し、大坂側の未刊行史料を全面的に活用することで、享保後期を中心に、8代将軍の徳川吉宗による政権運営や改革政治のあり方と特徴、その転換などを実証的に明らかにした。また、これの前提となる学会発表として、2023年3月、日本史研究会の近世史部会において「大坂からみた吉宗政権」と題する研究報告を行った。

(3) 2024年2月に勉誠社より刊行された上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門 ようこそ研究の世界へ！』において「幕府機構論 江戸幕府のしくみと政治のあり方を考える」と題する章を執筆した。ここでは、幕府の政治機構について、役職や組織・制度、その運営のあり方などの基本的なしくみと特徴を解説するとともに、主な先行研究の成果や視角・方法を紹介し、今後の研究を展望した。

(4) 2021年11月、『江戸幕府上方支配機構の研究〔オンデマンド版〕』と題する研究書を塙書房より刊行した。ここでは、上方における幕府の支配（行政や裁判）とその機構を総合的に解明するとともに、幕府の機構に共通する構造や特質を論じた2011年10月刊行の拙著『江戸幕府上方支配機構の研究』を全面的に再検討し、誤りや不備を訂正のうえオンデマンド版の形で再刊した。また、これに深く関わる学会発表として、2020年12月、神戸大学経済経営研究所の兼松セミナー（「紛争と秩序」研究会共催）において「上方からみた江戸幕府の機構と支配」と題する研究報告を行った。

(5) 2022年1月に刊行された関西大学史学・地理学会の『史泉』第135号に「御黒印并下知状覚書之留」享保期における幕府の遠国役人に関する史料」と題する論文を発表した。ここでは、享保期に上方などの江戸以外で勤務した幕府の遠国役人の組織や職務に関する重要文書を多数収録する未刊行史料「御黒印并下知状覚書之留」について解説し、その前半部分を翻刻・紹介した。また、2021年3・9月に刊行された関西大学文学部の『関西大学文学論集』第70巻第4号と第71巻第1・2合併号において「上方八ヶ国手限取計留」(一)・(二) 江戸中後期の上・大津代官に関する史料の紹介と分析」と題する論文を執筆した。ここでは、江戸中後期に幕府の大津代官が裁判や行政に関する重要な事例をまとめた未刊行史料「上方八ヶ国手限取計留」について解説し、それを全面的に翻刻・紹介した。さらに、2024年3月に刊行された『関西大学文学論集』第73巻第4号に「検使見合書留」(一) 江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析」と題する論文を発表した。ここでは、江戸中後期に幕府の京都代官が裁判や行政に関する重要な事例をまとめた未刊行史料「検使見合書留」の前半部分を翻刻・紹介し、その性格と意義を論じた。

(6) 2019年10月に関西大学で開催された泊園記念会・関西大学東西学術研究所の第59回泊園

記念講座において「江戸幕府の上方（かみがた）政治 享保期の大阪を中心に」と題する講演（招待講演）を行った。ここでは、享保期の大阪を主なフィールドとして、上方における幕府の政治や法のあり方を探るとともに、その特徴や時期的な変化について考察した。また、2020年7月に刊行された関西大学東西学術研究所内泊園記念会の『泊園』第59号において「江戸幕府の上方（かみがた）政治 享保期の大阪を中心に」と題する講演録を執筆した。ここでは、上記講演の記録を全面的に再検討・改稿し、享保期の大阪を中心に、上方における幕府の政治や法のしくみとその特徴を論じた。

(7) 2021年2月に刊行された国史学会の『国史学』第232号において「書評と紹介 高塩博著『江戸幕府法の基礎的研究《論考篇・史料篇》』」と題する書評を執筆した。ここでは、吉宗政権以降に整備・確立される幕府法の編纂過程とその内容・特徴を実証的かつ体系的に明らかにした高塩博氏の新著について、その成果や意義を指摘し、疑問点と今後への期待を示した。また、2020年1月に大阪市立淀川区民センターで開催された大阪歴史学会近世史部会の例会において「書評 村田路人著『近世畿内近国支配論』（塙書房、2019年）」と題する研究報告を行った。ここでは、畿内近国（上方）をフィールドに、幕府と個別領主による二元的な支配の構造や特質を論じた村田路人氏の新著をとりあげ、その内容を整理するとともに研究上の成果・意義を指摘し、疑問点や今後への期待を述べた。

(8) 2022年8月にミネルヴァ書房より刊行された岩城卓二・上島享・河西秀哉・塩出浩之・谷川穰・告井幸男編『論点・日本史学』において「江戸幕府の法 幕府はどのように法を整備・運用したのか」と題する項目を執筆した。ここでは、徳川吉宗が整備した幕府の法の内容や運用とその特徴、幕府と藩の間や幕府の内部における法の多元性などにつき、最新の知見と研究上の論点を紹介し、今後を展望した。

(9) 2019年5月に刊行された史学会の『史学雑誌』第128編第5号の「2018年の歴史学界 回顧と展望」において「日本 近世 四 後期政治史」のパートを執筆した。ここでは、2018年に発表された日本近世史に関する著書・論文・資料等のうち後期政治史に関する主な成果をとりあげ、それぞれの概要を紹介し、研究上の意義を述べた。また、2022・23年3月に刊行された法制史学会の『法制史研究』第71号の「令和2年法制史文献目録」と第72号の「令和3年法制史文献目録」において「日本法制史文献目録 織豊・江戸期」のパートを執筆した。ここでは、2020・21年に発表された日本法制史に関する単行本・論文等のうち近世（織豊・江戸期）の主な業績をとりあげ、その書誌情報を掲げた。

(10) 一般の方々に興味深く、わかりやすい形で発信することにより、本研究の成果を社会や国民に還元する活動として、2021年6月に京都市生涯学習総合センター山科で「御触書にみる江戸時代の京都 元禄期を中心に」、2022年9月に京都市生涯学習総合センター山科で「御触書にみる江戸時代の京都 享保期を中心に」、12月に宇治市生涯学習センターで「江戸幕府の上方における統治のしかた 8代将軍吉宗の享保改革を中心に」、2023年8月に京都市生涯学習総合センター山科で「御触書にみる江戸時代の京都 天明・寛政期を中心に」、10月に高槻市立生涯学習センターで「絵図・名所図会・御触書にみる江戸時代の大坂」、11月に宇治市生涯学習センターで「江戸時代の裁判」と題する講演をそれぞれ行った。これらでは、幕府の評定所や京都・大坂町奉行所の法令と裁判に関する史料を読み解きながら、上方を主なフィールドに、江戸時代の政治・社会のあり方や現在とのつながりを解説するとともに、幕府の支配とその機構について論じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 小倉 宗	4. 巻 73(4)
2. 論文標題 「検使見合書留」(一) 江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 關西大學文學論集	6. 最初と最後の頁 25-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/0002001099	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 小倉 宗	4. 巻
2. 論文標題 幕府機構論 江戸幕府のしくみと政治のあり方を考える	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門 ようこそ研究の世界へ!』(勉誠社)	6. 最初と最後の頁 95-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小倉 宗	4. 巻 2
2. 論文標題 將軍吉宗の改革政治	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 村和明・吉村雅美編『日本近世史を見通す2 伝統と改革の時代 近世中期』(吉川弘文館)	6. 最初と最後の頁 35-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小倉 宗	4. 巻 135
2. 論文標題 「御黒印并下知状覚書之留」 享保期における幕府の遠国役人に関する史料	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史泉	6. 最初と最後の頁 14-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00028076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉 宗	4. 巻 71(1・2)
2. 論文標題 「上方八ヶ国手限取計留」(二) 江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 關西大學文學論集	6. 最初と最後の頁 61-99
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00025439	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉 宗	4. 巻 232
2. 論文標題 書評と紹介 高塩 博著『江戸幕府法の基礎的研究《論考篇・史料篇》』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国史学	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉 宗	4. 巻 70(4)
2. 論文標題 「上方八ヶ国手限取計留」(一) 江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 關西大學文學論集	6. 最初と最後の頁 115-144
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00023098	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉 宗	4. 巻 59
2. 論文標題 江戸幕府の上方(かみがた)政治 享保期の大坂を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 泊園	6. 最初と最後の頁 5-75
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小倉 宗	4. 巻 京都
2. 論文標題 幕府役人と享保期の改革	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 杉森哲也編『シリーズ三都 京都巻』（東京大学出版会）	6. 最初と最後の頁 51-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小倉 宗
2. 発表標題 大坂からみた吉宗政権
3. 学会等名 日本史研究会 近世史部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小倉 宗
2. 発表標題 上方からみた江戸幕府の機構と支配
3. 学会等名 神戸大学経済経営研究所 兼松セミナー（「紛争と秩序」研究会共催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小倉 宗
2. 発表標題 書評 村田路人著『近世畿内近国支配論』（塙書房、2019年）
3. 学会等名 大阪歴史学会近世史部会 2020年1月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小倉 宗
2. 発表標題 江戸幕府の上方（かみがた）政治 享保期の大坂を中心に
3. 学会等名 泊園記念会・関西大学東西学術研究所 2019年度 第59回泊園記念講座 「東と西 その14」（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小倉 宗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 塙書房	5. 総ページ数 342
3. 書名 江戸幕府上方支配機構の研究〔オンデマンド版〕	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>〔項目〕 小倉 宗、江戸幕府の法 幕府はどのように法を整備・運用したのか、岩城卓二・上島享・河西秀哉・塩出浩之・谷川穰・告井幸男編『論点・日本史学』（ミネルヴァ書房、ISBN：9784623093496）、2022年8月、pp172-173</p> <p>〔研究動向〕 小倉 宗、日本 近世 四 後期政治史（「2018年の歴史学界 回顧と展望」）、史学雑誌、128編5号、2019年5月、pp115-118 小倉 宗、日本法制史文献目録 織豊・江戸期（令和2年法制史文献目録）、法制史研究、71号、2022年3月、pp12-17 小倉 宗、日本法制史文献目録 織豊・江戸期（令和3年法制史文献目録）、法制史研究、72号、2023年3月、pp13-17</p> <p>〔講演〕 小倉 宗、御触書にみる江戸時代の京都 元禄期を中心に、京都市生涯学習振興財団・アスニー山科特別講演会、2021年6月、京都市生涯学習総合センター山科（アスニー山科）（京都） 小倉 宗、御触書にみる江戸時代の京都 享保期を中心に、京都市生涯学習振興財団・アスニー山科講演会、2022年9月、京都市生涯学習総合センター山科（アスニー山科）（京都） 小倉 宗、江戸幕府の上方における統治のしかた 8代將軍吉宗の享保改革を中心に、宇治市民大学運営スタッフ会・宇治市民大学 令和4年度後期「歴史コース」、2022年12月、宇治市生涯学習センター（京都） 小倉 宗、御触書にみる江戸時代の京都 天明・寛政期を中心に、京都市生涯学習振興財団・アスニー山科講演会、2023年8月、京都市生涯学習総合センター山科（アスニー山科）（京都） 小倉 宗、絵図・名所図会・御触書にみる江戸時代の上方（全3回）、高槻市文化スポーツ振興事業団・けやきの森市民大学秋期講座 関西大学公開講座、2023年10月、高槻市立生涯学習センター（大阪） 小倉 宗、江戸時代の裁判、宇治市民大学運営スタッフ会・宇治市民大学 令和5年度後期「歴史コース」、2023年11月、宇治市生涯学習センター（京都）</p>
--

6. 研究組織		
氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------